

## 議題 2

### 青少年交流事業の開催結果について（報告）

- |   |                                |    |
|---|--------------------------------|----|
| 1 | 「青少年国際平和未来会議 2017 ヒロシマ」開催結果    | 5  |
| 2 | 「2017 広島市・大邱広域市青少年交流事業」開催結果    | 9  |
| 3 | 「平成 29 年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい」開催結果 | 12 |

## 「青少年国際平和未来会議 2017 ヒロシマ」 開催結果

### 1 目的

広島市の姉妹・友好都市等の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深めるとともに、広く世界の国々の青少年に核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めることにより、グローバル人材の育成を図る。

### 2 主催

青少年国際平和未来会議 2017 ヒロシマ実行委員会  
 (構成：一般社団法人広島国際青少年協会、広島市教育委員会、広島市ほか)

### 3 事業期間

平成 29 年 (2017 年) 8 月 4 日 (金) ～8 月 14 日 (月) (10 泊 11 日)

### 4 開催場所

広島市内及びその周辺

### 5 参加者

広島市 20 名 [ 指導者 2 名、青少年 18 名 (高校生 12 名、大学生 6 名) ]  
 姉妹・友好都市等 12 都市 31 名 [ 指導者 5 名、青少年 26 名 (高校生 4 名、大学生 22 名) ]  
 ボルゴグラード、サンクトペテルブルク(ロシア)、重慶、寧波、成都(中国)、大邱(韓国)  
 バンコク(タイ)、グラノラズ(スペイン)、マンチェスター(英国)、ハノーバー(ドイツ)  
 イーペル(ベルギー)、サントス(ブラジル)

### 6 主な日程

日 時	内 容	宿 泊
8 月 4 日 (金)	終日 海外都市参加者到着 (出迎え)	国際青年会館
8 月 5 日 (土)	午前 オリエンテーション、自己紹介、グループ分け 午後 プレゼンテーション及び原爆詩の朗読練習、歓迎夕食会	
8 月 6 日 (日)	午前 平和祈念式典参列、鯉のぼり署名活動 午後 ヒロシマの心を世界に 2017 (未来会議開会式、各都市プレゼンテーション、原爆詩朗読等)	
8 月 7 日 (月)	午前 フリータイム (台風接近のため宿舎待機) 午後 慰霊碑参拝、平和記念資料館見学、被爆体験講話	
8 月 8 日 (火)	午前 上田流和風堂訪問 (茶道体験) 午後 厳島神社参拝・散策、もみじ饅頭・しゃもじクラフト体験	
8 月 9 日 (水)	終日 ホームステイ (9:00 対面式～)	
8 月 10 日 (木)	終日 ホームステイ (～20:00 までに帰着)	国際青年会館
8 月 11 日 (金)	午前 平和首長会議プログラム (概要説明、参加都市取組発表等) 午後 グループディスカッション、夏まつり参加 (竹屋小学校)	
8 月 12 日 (土)	午前 グループディスカッション (昼食：お好み焼き体験) 午後 グループディスカッション	
8 月 13 日 (日)	午前 グループディスカッション、ヒロシマアピールまとめ 午後 閉会式 (ヒロシマアピール発表)、さよならパーティー	市内ホテル
8 月 14 日 (月)	終日 海外都市参加者出発 (見送り)	

### 7 研修会等

事前研修会 ① 6 月 18 日(日) ② 6 月 25 日(日) ③ 7 月 9 日(日) ④ 7 月 16 日(日) ⑤ 7 月 23 日(日)  
 ⑥ 7 月 30 日(日)

事業報告会 11 月 19 日(日) (「国際交流・協力の日」にて)

## 8 成果

10カ国13都市から参加した青少年は、長期間にわたり活動を共にする中で、互いの長所や魅力を発見しながら友情を深め合うとともに、各自の考え方や意見の違いを認め合いつつグループとしてのより良いあり方を模索していく中で、相互理解へ向けた努力や忍耐の重要性を再認識することができた。

グループディスカッションにおいては、30年後の未来に向けてどのようにしたらより良い世界を構築していけるかを最終テーマに掲げ、平和とは何か、平和を阻害する要素は何か、若い世代が世界平和の実現に向けてできることは何かについて意見交換を重ね、その成果を「ヒロシマアピール」(別紙参照)として発表した。

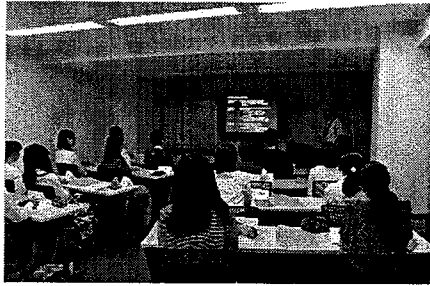
## 9 参加者の所感

- 様々なバックグラウンドを持った参加者と、広島について、世界平和について話し合うという非常に貴重な機会に参加できたことに本当に感謝しています。ここで得た経験・考え方・仲間、どれもかけがえのない財産です。(大学4年・男子)
- 過去の戦争をふまえ、平和を受け継ぎ伝えていくことが、私たち若者に託された使命であることを、この会議を通して強く思いました。また、世界の様々な人や文化、考え方を知り、共有できた時間はとても楽しかったし、有意義なものになりました。この国際平和未来会議に参加できたことを本当に嬉しく思います。(高校2年・女子)
- この11日間、とても充実したものになりました。大学生や他校の方と交流する機会はなかなかなく、同じ学校でも学年・クラス・部活のどれかが違えばたくさん交流できないため、多くの人や学校について知ることができました。今回の参加者はたくさんの国から来ていて、ほとんどの国の人と会うのが初めてだったため、各国についてほとんど知りませんでした。でも、交流していくうちにたくさんの国について知ることができて、仲良くなることが出来ました。海外にも日本にも、たくさんの友達をつくることできてとてもよかったです。私はこの会議に参加する前、高校1年生の間に韓国語を学びたいと思っていたのですが、参加後は自分の英語力のなさに気づき、まずは英語をもっと使えるようにならなければならないと思うようになりました。参加していなければ、そのことに気づけず中途半端なまま韓国語を中途半端に学び始めるという風になりかねなかったので、気づかせてくれた IYCPF に、参加者の皆さんに感謝します。(高校1年・女子)
- この会議を通して学んだことは、言語は違っていても伝えたいことを一生懸命自分なりに伝えようと努力すれば伝わるとことです。私は他の広島メンバーに比べて話すことが苦手でした。どのようにして英語で伝えたいのかかわからなくて、本当に苦労しました。だけど、周りの仲間の優しさにより、最後までやり遂げることができました。もう少し英語を学び、もっと話せるようになっていきたいし、もっとコミュニケーションを取れるようになりたいと思いました。(高校3年・女子)
- 毎日が刺激的で、日本にいるのに留学しているような気分でした。様々な国の人々が集まることにより文化や考え方の違いを肌で感じました。英語のディスカッションでは悔しい思いをしましたが、それを力に変えて、今後より一層英語の勉強を頑張ろうと思いました。(大学2年・女子)
- 私にとって、青少年国際未来会議 2017 は毎日が刺激的なものでした。最近、広島には多くの外国人が訪れるようになりましたが、こうやって10日間、直接海外の人と交流することで、教科書や授業で習わない文化の違いや、海外の人たちのあたたかさを身をもって感じるすることができました。そして、ディスカッションを通して、どういう状態が平和なのか、平和の定義を考えさせられ、また、この平和を邪魔するもの、30年後のことについて、いろいろな意見を聞くことができました。こういうコミュニケーションも、平和のために必要な要素の1つだと思いました。今回の会議を通して、自分の英語力のなさにとても落ち込んだりもしましたが、それもいい刺激になり、自分はなんて幸せな環境にいるんだろうと思いました。ここでの経験は、これからのスタートになると思います。参加して本当に良かったなと思います。これからもこのようなプログラムがあり続けてほしいです。(大学2年・女子)
- 想像していた以上にいろいろな国の方と話すことができ、本当に貴重な体験をさせていただきました。海外の方とのふれあいはもちろん、グループをまとめる力や、臨機応変に対応する柔軟性など、さまざまなことを学ぶことができました。心から参加して良かったと思います。(高校2年・女子)

## 10 事業後の取組

11月19日(日)の「国際交流・協力の日」において事業報告会を行う。また、国内外の参加者に今後の事後活動について予定や実績など、定期的な事後アンケートへの協力を依頼することにより、各都市における平和貢献活動の促進と現状把握に努める。

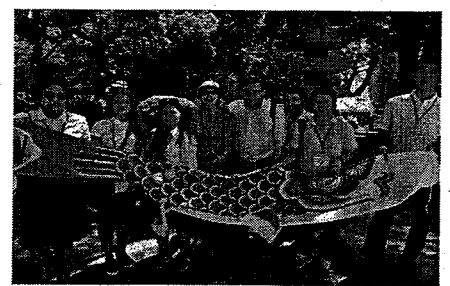
《活動の様子》



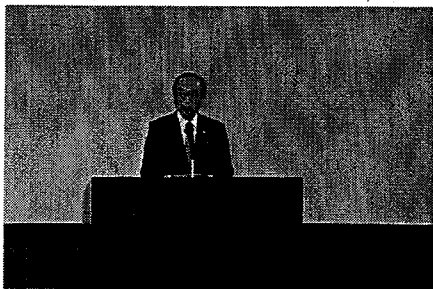
6/18(日) 事前研修会



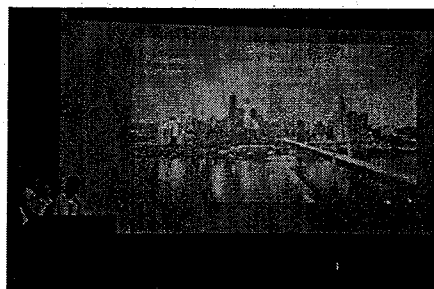
8/6(日) 平和祈念式典参列



8/6(日) 鯉のぼり署名活動



8/6(日) 開会式市長挨拶



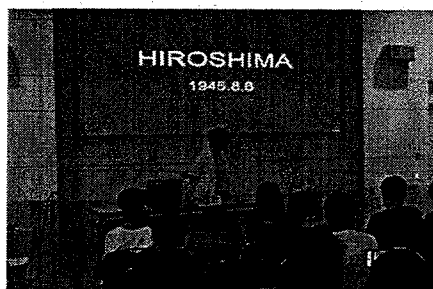
8/6(日) 各都市プレゼンテーション



8/7(月) 慰霊碑参拝



8/7(月) 平和記念資料館見学



8/7(月) 被爆体験講話 (小倉桂子さん)



8/8(火) 厳島神社参拝



8/11(金) 夏まつり参加 (竹屋小学校)



8/11 (金) グループディスカッション



8/12 (土) グループディスカッション



8/13 (日) ヒロシマアピール作成



8/13(日) 閉会式(ヒロシマアピール発表)



8/13(日) さよならパーティー

## 青少年国際平和未来会議 (IYCPF)2017 ヒロシマアピール (仮訳)

私たち10か国の都市を代表して集まった44名の IYCPF メンバーは、広島に集い、平和について議論しました。平和とは何か？何が障害なのか？より平和な世界に向けて、私たち若い世代は何ができるのか？私たちは広島の地で出会った仲間と、広島で出会った人々から、互いについて、そして互いの文化について学び、さらには広島の被爆の記憶のみならず、世界各地の経験から、多くを学びました。

私たちは、さらなる思いやりや相互理解、地域社会に積極的に参加すること、教育、科学技術そしてコミュニケーションによって格差を埋めること、さらには環境の持続可能性を維持しながら生活することによってのみ、真の平和は達成されると考えます。

他者の存在について学び、そして彼ら彼女らが直面する課題を学び、私たちは交渉を通じて合意に至り、そして、私たちの行動が、より人々の助けとなり、より効果的となり、より歓迎されるものとなることを確認しました。

コミュニティにおいて、オンラインまたはオフラインで、ソーシャルメディアや社会にあるさまざまな組織においても行動的であることで、また、組織を作り、ボランティア活動に関わり、語りかけ傾聴することで、私たちは未来に対する責任を果たします。多くの人々が決定に関わるとき、その決定がより波及力をもつと、私たちは確信しています。私たちの行動はさらに現実的であり、広範囲に及び、そして力強いものになることを確信しています。

私たちは、教育こそが、私たち自身の未来だけでなく将来世代に対しても、多くの人々が関与し責任を果たすことを促すと考えます。私たちの行動が、人々が破壊するよりも多くのもので作り上げ、人々が消失させるよりも多くのもので将来に引き継ぐことを期待し、また、私たちの行動が、近くの人々、遠くにある人びととつながることを期待します。

私たちは完全に孤立して生きることは不可能であり、コミュニティの重要性を認識していることから、私たちは自分中心の生活を控えるよう努めます。私たちの行動は、良くも悪くも、私たちだけでなく、他者にまで影響を及ぼします。私たちはさらに効果的に行動し、消費主義に過剰に走ることなく、私たちの日々の生活において技術やエネルギーを無駄なく使うことを期待します。

文化とは私たちの周囲にあるものではなく、私たちの中に育つものであると、心に刻まなければなりません。私たちは私たち自身の文化の担い手であり、同時に、他者の文化を真摯に学ぶ姿勢を持ち続けます。深い理解や真摯な関わり、そしてより効果的で健全で思慮深く生活することによって、私たちが平和のために必要とする信頼が構築されるのです。

今年、核兵器禁止条約が大多数の人々と国々の支持のもと、採択されました。このことはとても重要な一歩といえますが、私たちがなすべきことはまだあります。核兵器の廃絶はまだ実現していません。世界はまだ平和とはいえません。したがって、私たちは、不平等、貧困、腐敗、抑圧、汚染、消費主義そしてあらゆる形態の差別に立ち向かうべく、さらに歩みを進めなければなりません。

2017年 8月13日

青少年国際平和未来会議 2017 ヒロシマ

参加者一同

## 「2017 広島市・大邱広域市青少年交流事業」開催結果

### 1 目的

広島市の姉妹都市である韓国大邱広域市に青少年を派遣し、生活を共にしながら国際交流を行うことにより、本市と大邱広域市の青少年の相互の友情を深めるとともに、青少年の世界平和への意識を高める。

### 2 主催

2017 広島市・大邱広域市青少年交流事業実行委員会

(構成：広島県日韓親善協会、広島市教育委員会、広島ユネスコ協会、NPO 法人友愛アカデミー)

### 3 事業期間

平成 29 年 (2017 年) 7 月 27 日 (木) ～7 月 31 日 (月) (4 泊 5 日)

### 4 開催場所

大邱広域市

### 5 参加者

広島市 23 名 [指導者 (通訳含む) 3 名、青少年 20 名 (中学生 6 名、高校生 14 名)]

大邱広域市 26 名 [指導者 6 (通訳含む) 6 名、青少年 20 名 (中学生 15 名、高校生 5 名)]

### 6 主な日程

日 時		内 容	宿 泊
7 月 27 日 (木)	午前	出発式	大邱広域市 青少年修練院
	午後	移動	
	夜	歓迎夕食会	
7 月 28 日 (金)	午前	韓国伝統文化体験	各ホストファミリー宅
	午後	森チャレンジ (アスレチック) ホームステイ (対面式)	
7 月 29 日 (土)	午前	ホームステイ	各ホストファミリー宅
	午後	青少年オウルリムマダン参加	
7 月 30 日 (日)	午前	班別意見交換	大邱広域市 青少年修練院
	午後	班別発表会、都市鉄道 (モノレール) ツアー、 西門市場見学	
	夜	閉会行事、さよならパーティー	
7 月 31 日 (月)	午前	大邱国際空港へ移動	
	午後	移動	

### 7 研修会等

結団式・事前研修会① 6 月 11 日 (日)

事前研修会② 6 月 25 日 (日)

事前研修会③ 7 月 9 日 (日)

事前研修会④ 7 月 23 日 (日)

市長訪問 7 月 24 日 (月)

解団式・事後研修会 8 月 9 日 (水)

事業報告会 11 月 19 日 (日) (「国際交流・協力の日」にて)

## 8 成果

参加者は事前研修で韓国語を学んだり、在日韓国人の朴南珠(ぱく なむじゅ)さんの被爆体験講話や、ひろしまメッセージャーから韓国や大邱広域市の歴史や習慣などを聞き、韓国、大邱広域市についての理解を深めるとともに、広島市の代表であるという自覚を持って主体的に活動した。また、歓迎夕食会や青少年が参加するお祭りの出し物の練習を自主的に行うなど事前研修の回を重ねる毎にチームワークを深めた。交流期間中は、使い慣れない韓国語や身振り手振りで、大邱広域市の参加者と積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が多く見られた。

生活を共にしながら交流を進める中で、お互いの国の文化や歴史、生活習慣や考え方について理解を深め、グローバルな視野を広げる契機となった。また、今後も日韓友好の架け橋になりたいとの意識を醸成することができた。

## 9 参加者の所感

- 「韓国～、危なくない?」「大丈夫?韓国人気をつけなよ?」これは、私がこの事業に参加することが決まった際に友達にかけられた言葉だ。私がこの事業に参加した動機は、政治問題を抱えながらも交流のある韓国で日本文化がどう浸透しているのかを確かめたかったからと同時に、実際日本に対する思いはどんなのかというところだ。(中略)

この交流事業を通して感じたことは、「政治上での関係が実際の日韓関係のすべてではない。」ということ。私が韓国人の友達に「日本のイメージは実際どう?」と聞くと「いい国だよ、日本!」と言われたことがとても衝撃でうれしかった。さらにその友達によると韓国では中学3年の時から日本語の授業を必須としていてそのことから日本に興味を持つ人も多いらしく、私たちが思っていた韓国人へのちょっとした偏見は最悪なものだったなと感じた。私が今回この事業で感じたこの考えをちゃんと広めていくべきだなと思った。実際今回の活動で手助けをしてくれた韓国人の通訳の先生は、「大学の時にこのような事業に参加して今年で17年目の交流関係を続けていて、みんなにもこの事業が終わってもせつかくこの関係を大切にしていってほしい」と話していたので、この交流事業で感じたことを生かすためにも、学生のうちに体験することができた今回の貴重な機会を無駄にすることなくずっと交流を続けていけたらいいなと思った。(高校1年・女子)

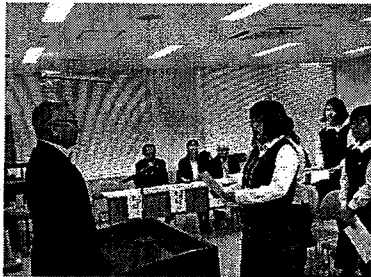
- 今回の経験を生かして今後は、もっと積極的に他の国との交流に参加して、相手を理解しようとする心とその方法を学んでいきたいです。そのために、もっと自国の文化や、広島の平和史を学び、時には人に教えてもらって、他国の人に伝えられるようにしていきたいと思います。特に平和については被爆者から直接話を聞ける広島に生まれた最後の世代として、たくさん話を聞き、それに対する自分の意見をしっかり持った上で伝えていきたいです。そして、もっとたくさんの言語を知り、将来的には、学んだことを生かして、海外で働きながら、たくさんの言語、人種、宗教が違う人達の意見を聞き、自分の意見を伝え、話し合うことができるようにしていこうと思います。(高校1年・女子)
- 私が「2017 大邱・広島青少年交流事業」に参加させていただき、一番印象に残っているのは大邱と広島の皆さんの笑顔です。初日は、いきなり多くの文化の違いを目の当たりにし、戸惑いと不安でいっぱいになりましたが、韓国の方の温かい言葉や人柄に包まれて、徐々に緊張が解けていくのが分かりました。(中略)

この班別活動では、お互いに目を見て伝え合うことで、もっと韓国の文化について知りたい・見たい、もっと日本の事を伝えたいという意欲がわき、移動中のバスの中や家の中でもたくさんパートナーと話すことができました。韓国と日本の国同士の情勢とは関係なく、同世代の友人として一緒に写真を撮ったり、何気ない会話をしたり、遊びに行ったりした時間は本当に楽しく、限られた時間の一分一秒が惜しく感じられました。私はこの研修を通じて、自分の視野が広がったように思います。それぞれの国で異なる文化があり、異なる文化を背景にそれぞれの個性があるからこそ、こうした交流事業を通じて、理解しようとすることは素晴らしいことだと改めて感じました。青少年同士が直接意見を交換し、その個性を伝え合い分かち合う文化交流はとても有意義で必要なものだと思います。だから、私はこれからも積極的に文化交流に参加し、今回出会った仲間の笑顔を胸に、目標に向かって前進していきたいです。そして将来、少しでも日韓の溝を埋めることにつなげていきたいです。(中学3年・女子)

## 10 事業後の取組

11月19日(日)の「国際交流・協力の日」において事業報告会を行う。また、引き続き参加者に対して他の国際交流事業の情報や機会を提供するとともに、定期的な事後アンケートへの協力を参加者に依頼することにより、事後活動の促進と状況把握に努める。

### 《活動の様子》



6/11(日) 結団式(誓いの言葉)



6/25(日) 事前研修会(被爆体験講話)



7/24(月) 市長訪問



7/27(木) 歓迎夕食会(広島クイズ)



7/28(金) 伝統文化体験



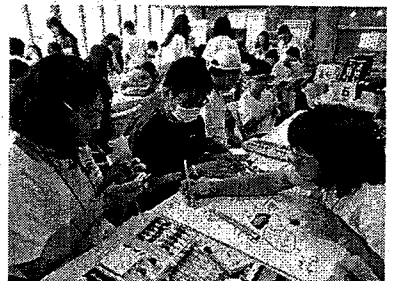
7/28(金) 森チャレンジ



7/28(土)・29(日) ホームステイ



7/29(土) 青少年オウルリムマダン



7/30(日) 班別意見交換



7/30(日) 班別発表



7/30(日) 都市鉄道(モノレール)ツアー



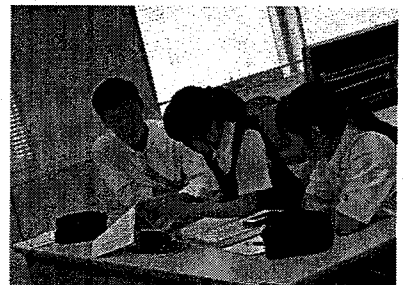
7/30(日) さよならパーティー



7/31(月) 大邱空港



8/9(水) 解団式(感想発表)



8/11(水) 事後研修会(報告会資料作成)



「平成 29 年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい」開催結果

1 目的

広島・長崎両市の児童生徒が交互に訪問し合い、平和学習を通じて平和意識の高揚を図るとともに、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育む。また、集団生活や体験学習を通じて、友情と親睦を深めるとともに、自主性や社会性を育てる。さらに、青少年リーダーとしての指導力や実践力を養う。

2 主催

広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会  
 (構成：広島市子ども会連合会〔担当：南区子ども会連合会〕、広島市教育委員会)

3 事業期間

平成 29 年 (2017 年) 8 月 18 日 (金) ～8 月 20 日 (日) (2 泊 3 日)

4 開催場所

広島市

5 参加者

広島市子ども会連合会 (担当：南区子ども会連合会)  
 58 名 [指導者 14 名、児童生徒 44 名 (小学生 22 名、中学生 22 名、高校生 7 名)]  
 長崎市子ども会育成連合会  
 43 名 [指導者 9 名、児童生徒 34 名 (小学生 19 名、中学生 8 名、高校生 7 名)]

6 主な日程

月日	曜日	内容	宿泊場所
8 月 18 日	(金)	入所式、オリエンテーション、歓迎セレモニー 等	似島臨海少年自然の家
8 月 19 日	(土)	平和学習 (献花、折鶴奉納、平和記念資料館見学 等) 広島市長歓迎セレモニー、市内散策、キャンプファイヤー 等	似島臨海少年自然の家
8 月 20 日	(日)	お別れセレモニー、解散式 等	

7 研修会等

結団式・事前研修会① 7 月 15 日 (土)  
 事前研修会② 8 月 17 日 (木)  
 解団式・事後研修会 8 月 27 日 (日)

## 8 成果

広島・長崎市の児童生徒が平和学習を通して平和意識を醸成し、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育むことができた。

また、参加者は集団生活や体験学習を通じて、自主性や社会性を培い、青少年リーダーは、指導力や実践力を養うことができた。

## 9 参加者の所感

### 【広島市】

- ・ 被爆についての講話や、平和記念公園の説明を聞いて、今まで知っていたつもりになっていただけで、知らなければならないことは、まだまだたくさんあるなと思いました。(中学3年・女子)
- ・ 平和のつどいのような機会を通して、全国の人たちと平和を祈り、その結果戦争や核をなくしていけたらいいなと思いました。(中学2年・女子)
- ・ 今回学んだことを忘れないようにしたいです。そして、下の学年の人にも伝えられるようにがんばりたいです。(中学1年・女子)
- ・ わたしは平和のつどいで、平和は一人では作れないということを学びました。一人一人がお互いのことを考え、思いやることで、核兵器は少しずつでも減らせると思います。(中学2年・女子)
- ・ この平和のつどいは、改めて平和について考える機会となりました。(小学6年・男子)
- ・ 世界には笑顔、友達、それらをまとめて平和が必要だと思います。核兵器も全て捨て、国同士が仲良くなるといいです。(小学6年・女子)
- ・ 今まで、原子爆弾の被害の大きさは分かっているけど、一人一人の様子については見たり聞いたりすることがなかったので、私のような子に次は私が伝えていき、原爆のことを忘れないようにしていきたいです。(中学1年・女子)
- ・ 自分が今、毎日楽しくいられるのも、平和があつてこそだという、当たり前だけど忘れがちなことを思い出すことができよかったです。(高校1年・女子)

### 【長崎市】

- ・ 長崎に住んでいるだけでは分からない広島の原爆について、お話を聞いたり被爆された方々の写真や展示物を見たりして、広島の被害の大きさを感じました。(高校2年・女子)
- ・ 平和を願い、心をこめて、絶対に戦争をしたり人をきずつけたりしないようにちかひながら、「折りづる」の歌を歌いました。(小学5年・男子)
- ・ 長崎に落とされた原爆の事は、毎年被爆体験講話などで知っていたけど、広島に落とされた原爆については、落とされた時間と爆弾の名前だけで、爆心地や爆発の仕組みなどについては初めて知りました。(小学6年・女子)
- ・ 長崎は山に囲まれているけど、広島は基本的に平地なため、広範囲に被害が広がってしまい、結果、長崎よりも死者などがかなり多くなってしまったことが分かりました。(中学2年・女子)
- ・ 去年、アメリカのオバマ前大統領が広島を訪れた時に折られた折り鶴が原爆資料館に展示されていて、感慨深かったです。(高校1年・男子)
- ・ これからは友達を大切にするなど、まず自分たちから、戦争のない世の中、平和をすすめていきたいです。(小学6年・男子)
- ・ これからの学校などでの平和学習などで、広島原爆の恐ろしさなどを伝えていきたいと思いました。(中学3年・男子)

## 10 事業後の取組

事業概要や参加者が書いた感想文を「感想文集」として作成し、広島市内の各学区の子ども会や南区内の小・中学校に配付する。

《活動の様子》



8/17 (木) オリエンテーション



8/17 (木) アイスブレイク



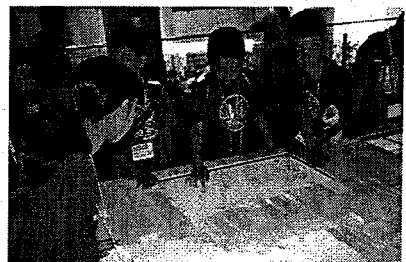
8/17 (木) 平和学習



8/19 (土) 献花



8/19 (土) 採火



8/19 (土) 原爆資料館の見学



8/19 (土) 広島市長歓迎セレモニー



8/19 (土) 折り鶴奉



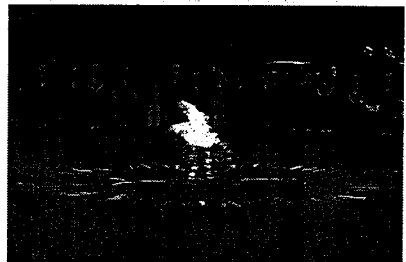
8/19 (土) 市内探索



8/19 (土) 平和学習



8/19 (土) 平和のつどい



8/19 (土) キャンプファイヤー



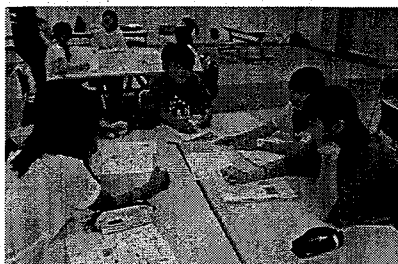
8/20 (日) お別れセレモニー



8/20 (日) 長崎団 見送り



8/20 (日) 解散式



8/27 (日) グループ討議 (振り返り)



8/27 (日) 班別発表 (テーマ: 成長したこと・今後の課題)

